

菟田野小だより「桜梅桃李」

No.3

令和4年 5月2日(月)

(<http://www.utano-e.ed.city.uda.nara.jp/>)

書店VS図書館

あなたはどちら派？

ひが～し～ 書店

に～し～ 図書館

「こどもの読書週間」が23日から始まり
ました。(5月12日まで)。今年の標語「ひ
とみキラキラ 本にドキドキ」には、“輝く瞳
や本を好きな気持ちをずっと持っていてほし
い”との願いが込められています。

長引くコロナ禍は子どもの読書量にも影響
を与えているようです。昨年の学校読書調査
によると、5月の1ヶ月間の平均読書冊数は、
小・中学生が過去31年間で最多になりました。
タブレット端末の
配布で全誌書籍に親し
む子どもが増え、ステ
イホームで読書に時間
もできたこともその要
因なのでしょう。



タブレット端末でも
手軽に本が選べる時代
ですが、随筆家の若松英輔氏は、読書の楽し
み方として「書店」の魅力を訴えています。

インターネットは目的の本を買うのに適し
ています。一方、書棚にいろんなジャンルの
本が並ぶ書店に行けば、目的の本という「決
まった場所」ではなく、「思いもよらなかった
場所」への切符を手にすることができます。
そんな経験をされた方は
たくさんおられるのでは
ないでしょうか。読書を
「旅」に例えると、書店
は「駅」である、と(『本
を読めなくなった人のた
めの読書論』亜紀書房)。



残念ながら菟田野に書店はありませんが、
大型連休に、家族で書店に立ち寄るのもいい
のではないのでしょうか。良書と共に、我が子
と有意義な“旅”へ！ 子どもの心を育み、
瞳の輝きを守るのは、大人の使命でもあると
思います。

タレント・彦摩呂さんのおなじみのフレー
ズを借りれば、「知の宝石箱やー！」と表現で
きるのではないのでしょうか。

図書館。そこには、人類が積み重ねた英知
があります。国境も、時空も超えた世界があ
ります。時に、人生さえ左右する出会いがあ
ります。

4月30日は「図書館記念日」。図書館法が
公布された1950年(昭和25年)の同日
にちなみ設定されたそうです。

図書館自体も近年、居心地にこだわるなど
“進化中”です。カフェ併設の館も各地に生
まれています。「金沢海みらい図書館」(石川
県金沢市)は、斬
新なデザインで「グ
ッドデザイン賞」
を受賞。世界の優
れた図書館として
紹介されました。
子ども向け図書館



「こども本の森」(大阪市、岩手県遠野市、神
戸市)は、まさに宝石箱。足元から天井まで
壁一面に本が並ぶなど、好奇心を刺激する仕
掛けがちりばめられています。親子で各地の
ユニークな図書館に足を延ばすことも貴重な
体験となるでしょう。

ある小説にこんな場面がありました。主人
公がある日、自宅の本箱の扉を取り外し、本
の背表紙がむき出しに並ぶようにしました。
そして妻に語ります。「子どもが背表紙を見
て育てば、本への興味ももつようになるし、
抵抗なく書物になじめるじゃないか。(中略)家
に本があるかないかで、精神形成のうえでは
大きな違いがある」と。

「知の宝石箱」には、“人間の精神”とい
う無上の宝を、より輝かせる可能性が秘めら
れています。